

主権者及び消費者の育成に係る指導の充実に関する実践研究
令和 5 年度実施報告（概要）

団体名： 千葉県教育委員会

1. 類型

【類型Ⅰ②】主権者に必要な資質・能力の育成に係る高等学校における実践

（ア. 公民科における指導）

【類型Ⅰ②】主権者に必要な資質・能力の育成に係る高等学校における実践

（イ. 特別活動における指導）

2. 実践校について

実践校名	ちばけんりつしろいこうとうがっこう 千葉県立白井高等学校	
全校児童・生徒数	実践研究の対象	
2 2 9 人	(学年) 第 2 学年	(児童・生徒数) 2 2 9 人

3. 実践校における実践内容

(1) 概要

大学や UR 都市機構等，地域の外部機関と連携しつつ，公民科を中心とした教科等横断的な主権者教育の学習プログラム（北総鉄道の運賃値下げを含むまちづくりをテーマとした探究活動，白井市の歴史に関する企画展の開催，学習成果をまとめたアプリ（英語版含む）の開発）を開発し，実践する。また，課題研究等の成果を地元自治体に提言したり，自治会の行事と連携したりする。

(2) 1 年目(令和5年度)の実践内容

実践校は昨年度から 3 か年計画を立てて遂行しており，1 年目が北総鉄道の運賃値下げを含むまちづくりをテーマとした探究活動。2 年目が白井市の歴史に関する企画展の開催。3 年目が学習成果をまとめたアプリ（英語版含む）の開発を予定している。そのため令和 5 年度の実践内容は，北総鉄道の運賃値下げを含むまちづくりをテーマとした探究活動の延長，並びに白井市の歴史に関する企画展の開催である。まちづくりをテーマとした探究活動については，UR 都市機構，龍谷大学などと連携し，希望生

徒と何度もワークショップを重ね、10月29日にマルシェを実施。白井駅前にて、生徒が希望する未来の白井市を実現させた。白井市の歴史に関する企画展の開催については、夏休みを利用して、白井市に長年在住されている方々に、白井の歴史についてのインタビューを実施。その成果を12月白井市郷土資料館にて表現した。

4. 実践校における実施体制

ワーキンググループ

委員長	校長
副委員長	教頭 2 学年主任（地歴科）
委員	地歴公民科職員 2 名・情報課職員・理科職員・数学科職員・芸術科職員 2 名

5. 各研究テーマについて、1 年目の実践を踏まえた成果等

【類型Ⅰ②】主権者に必要な資質・能力の育成に係る高等学校における実践 (ア. 公民科における指導)
--

【類型Ⅰ②】主権者に必要な資質・能力の育成に係る高等学校における実践 (イ. 特別活動における指導)

＜生徒が社会的事象に興味・関心を持ち、自分事として捉えながら、生徒に考えさせる教育活動を行うため、どのような指導上の工夫が考えられるか。＞

生徒自身が生活している身近の地域の話（北総鉄道値下げ）から入り、どのような未来を描いていくかを考えさせた。そこから実際に自分たちの提案を実現させることで、興味・関心を高め、自分事として捉えさせるようにした。

＜発達の段階に応じた情報活用能力の育成（特に、社会的事象に関する情報を収集し、その情報を公正に判断し、自分の意見をもつこと）に関して、どのような指導上の工夫が考えられるか。＞

自分たちの提案を実現させるため、スマートフォン等を利用し、またマイクロソフトパワーポイントを使ってプレゼンテーションを各班で実施した。また班によっては、地域経済分析システム（RESAS：リーサス）を使用したり、ZOOM によるヒヤリングを実施したりした。

＜教科等横断的な学習を充実するために、教育課程の編成に当たってどのような工夫が考えられるか。＞

公民科を中心に計画するものの、特別活動へ繋げたり、芸術科職員の協力を得たりした。例えば歴史総合の授業にて、資料の見方・捉え方を伝えた上で未来を考えられるようにす

る授業を展開した。そして企画展の開催には、パネルを作成するため、工芸の授業へ横断した。また、企画展の題字作成のため、書道部へ横断した。これらの活動を動画投稿サイトへアップロードするにあたって、吹奏楽部へ横断して、BGMを作成した。最後に成果をアプリでまとめるため、情報の授業と横断する予定である。

＜政治的事象について扱ったり、実際の選挙の機会を活用したり、議員を招へいしたりする学習活動を行う際、政治的中立性を確保するための取組に関して、どのような工夫が考えられるか(該当の取組がある場合)。＞

模擬投票の際、立候補者を複数擁立することで、政治的中立性を確保した。今年度4月実際に行われた統一地方選挙の選挙事務ボランティアを企画した際には、事前に白井市選挙管理委員会の方々に講演していただき、中立性の確保の重要性を伝えてから参加させた。

＜生徒が学校生活の充実と向上に主体的に参画することを促すため、どのような指導上の工夫が考えられるか。＞

生徒の考えを表して終わりにするのではなく、その考えを実際に実現させることで、主体的参画を促した。例えばマルシェの実施や企画展の開催などである。すなわち、極力抽象的概念で終わらせず、具体的なところまで持ってくるようにした。これらの経験から、生徒が主体的にボランティアを開発するように持っていった。

＜全ての教師が趣旨を理解し協力して関わることのできる、学校全体としての取組とするための校内体制構築に関して、どのような工夫が考えられるか。＞

校内体制に関しては、教科等横断を極めて強く目指しているため、関係職員に協力を要請し、学校全体で取り組むようにした。ただし、全体の会議を開くことが難しかったため、課題が残った。

主権者及び消費者の育成に係る指導の充実に関する実践研究
令和 5 年度実施報告（実践校における実践内容の詳細）

団体名： 千葉県教育委員会

1. 類型

【類型Ⅰ②】主権者に必要な資質・能力の育成に係る高等学校における実践
（ア. 公民科における指導）

【類型Ⅰ②】主権者に必要な資質・能力の育成に係る高等学校における実践
（イ. 特別活動における指導）

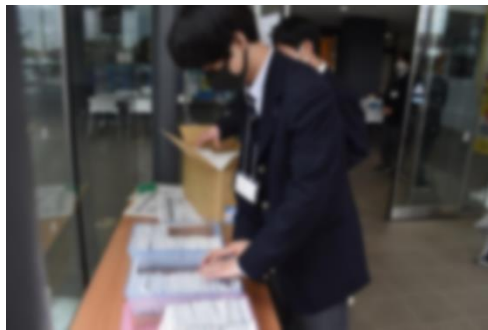
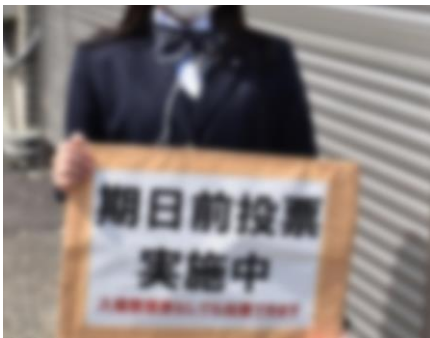
2. 実践校名

千葉県立白井高等学校

3. 実践校における 1 年目（令和 5 年度）の実践内容

1 年次 「白井市まちづくりプロジェクト」		
時期	実施内容	備考
2022. 04	政治や地域の課題に関心があるかアンケート	「公共」の授業
2022. 06	政治の仕組みの基礎学習	「公共」の授業
2022. 09	地方自治の基礎学習	「公共」の授業
2022. 09	「白井市の課題」に関する班別協議	「公共」の授業
2022. 11	「北総鉄道値下げとまちづくり」に関する班別協議	「公共」の授業
2022. 11	大学准教授による「北総鉄道値下げとまちづくり」の講演	まちづくりの案を複数提示（政治的中立性確保）
2022. 11	模擬白井市長選挙立候補者（教員）選挙演説	大学准教授の案をベースに数名立候補
2022. 11	模擬白井市長選挙	立候補者は男女複数人
2022. 11	弁護士講演会	空想から現実へ
2022. 12	UR 都市機構ワークショップ①	生徒の理想のまちを考察
2023. 03	UR 都市機構ワークショップ②	現場視察含め再考察
2023. 04	選挙事務実践	白井市統一地方選挙で実施
2023. 06	UR 都市機構ワークショップ③	企画書の作成
2023. 09	UR 都市機構ワークショップ④	企画書プレゼンテーション
2023. 10	白井駅前マルシェ	生徒の理想を現実に
2023. 12	体験発表①	これまでの学びを表現する（聖徳大学）
2024. 01	体験発表②	これまでの学びを表現する（地区のまちづくり協議会）
2024. 01	UR 都市機構ワークショップ⑤	マルシェ振り返り
2024. 02	体験発表③	これまでの学びを表現する（市長へ報告）
2 年次 「白井市歴史発掘プロジェクト」		
時期	実施内容	備考
2023. 04	歴史の捉え方の基礎学習	「歴史総合」の授業
2023. 04	「白井市歴史発掘プロジェクト」開始	白井市・白井市郷土資料館学芸員との顔合わせ
2023. 06	「白井市歴史発掘プロジェクト」参加者募集	投稿する側になることを声掛け
2023. 07	編集記者講演会	聞き取りの注意点説明
2023. 07	地域住民聞き取り調査	夏休みを利用
2023. 08	聞き取り調査とりまとめ	夏休みを利用
2023. 11	白井市郷土資料館企画展示物制作	「工芸Ⅱ」へ横断
2023. 12	白井市郷土資料館企画展示	学芸員と打ち合わせ
2024. 01	企画展から考える「グローバル化」する白井の未来に関する班別協議	「歴史総合」の授業にて

「白井市まちづくりプロジェクト」に関しては、希望生徒に①選挙事務実践②UR 都市機構、龍谷大学との共同研究ワークショップを実施した。①では実際の選挙を体験することで、前年に行った模擬選挙から、少しずつ現実味を帯びさせるようにした。生徒の声を1部紹介する。事前課題「選挙ボランティアにのぞむにあたって」では「選挙という物は、少なくとも18才になるまでの2年以上は、関わりが無いと思っていたので成人になる前から、このようなすばらしいボランティア活動に参加できることを、とてもうれしく思う。」や「選挙にあまり興味を持っていなかったのですがこの貴重な機会を大事にして選挙に対する興味を持ったりどんな雰囲気なのかとか知れたら良いと思います。」などと書かれていた。次に事後課題「選挙ボランティアを経験して」では「選挙ボランティアを経験して、自分も、早く選挙投票をやってみたいと思った。ボランティアに参加する前までは、正直あまり選挙には興味が無かったとか、「選挙については授業で聞くぐらいだったから実際の投票しているところとか、どんな感じの投票の仕方とかいろいろ知れて良かったし自分も18歳以上になったら選挙に来て投票しようと思った。」などと書かれており、生徒の選挙に対する主体的姿勢を促すことができた。



次に②UR 都市機構、龍谷大学との共同研究ワークショップでは、生徒の「やりたい」を実現させることを目標として、ワークショップを4回実施し、その後白井駅前マルシェを実施した。ワークショップでは、1回目まずは各班になって、純粹にやってみたいことをあげていった。



次に2回目では実際に足を運び、現地調査を実施した。



以降，各班で個別調査を行い，3回目はプレゼンテーション資料の作成。



4回目にそれを発表した。

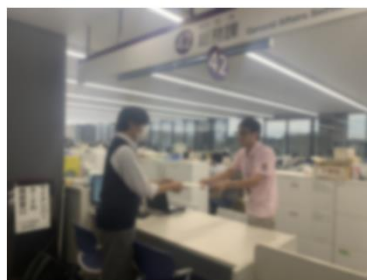


そしてその内容を実現させるため奔走した。

道路の
使用許可



共催後
援承認申請



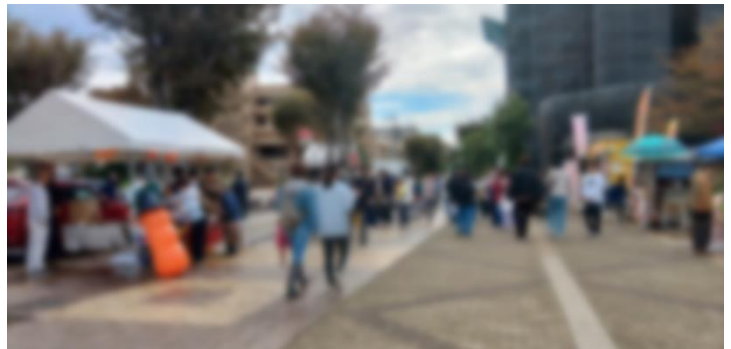
地元の
学校へ
チラシ配り



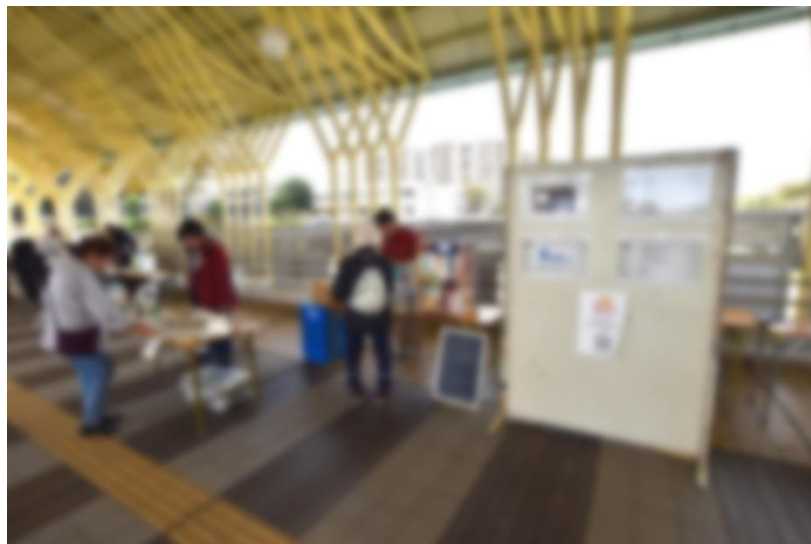
出店者
の方へ
挨拶まわり



これを実現させたのが白井駅前マルシェである。



例えば、リーサスや聞き込みによって、白井市に足りないものは本屋であると考察した班は移動書店を呼んだ。



また、白井の特産である梨を活かそうとした班は、梨のスムージーを商品開発。レンタルキッチン業者の協力を得て、実際に販売した。



地域の方だけでなく、生徒たち自身も楽しんで、まちづくりに参加することができた。ここに主権者意識向上をみることができる。



この活動を白井市長や、市民の方々へ聞いていただき、成果を地域へ還元するとともに、今後の課題についても共有した。



以上のような活動を実施したのが、「白井市まちづくりプロジェクト」である。

次に「白井市歴史発掘プロジェクト」について記載する。こちらは、歴史総合に横断し、白井のまちの歴史を自分たちの力で見つけ出した上で、未来を考えられるようにするものであり、いわば「白井市まちづくりプロジェクト」で得た主権者意識の質を高めることを目標としている。まず歴史総合にて資料の見方・捉え方を学んだ。学習指導要領解説によれば、大項目A「歴史の扉」において「複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し表現することにより、資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解すること、資料を取り扱う際の留意点に気付くことを主なねらい」とする。そこで、生徒たちでも手に入れられそうな「オーラルヒストリー」による資料に注目させる授業を展開した。こうすることにより、生徒が自分事として捉え、主体的にまちの未来を考えられる工夫をした。そして希望生徒に「オーラルヒストリー」によるまちの歴史の資料を手に入れるため、白井市に長く住んでいる方々へのインタビューを実施することを計画した。そのため、まずは聞き取りの注意点や記事のとりまとめ方を、地域情報のWEB発信を実施している「しろいまっち」編集担当の方から講演いただいた。



そして夏休みの期間を使って、実際にインタビューをした。



インタビューを実施した生徒の声を1部紹介する。「（話を聞いて）自然を残して活気ある街づくりをするために春夏秋冬で花を植える。という『花』を中心とした街づくりはすごく良い案だと思いました。」とか「（話を聞いて）商店街や店をふっかつさせたいと思った。でも、人がこないから店もすぐたたむので、まずは近年うしなわれてきた人との交流を増やし、近所付き合いの多い活発なすぐ助け合える市を目指」すべきである、などと考えている。白井の歴史を学ぼうとするインタビューが、主権者として質の高い未来を考えるきっかけとなっていることがわかる。そしてこの聞き取りをまとめる作業に入る。



証言者別、年代別にまとめた内容をデータ化し、パネルを作成して、企画展を実施した。
作成したパネルは冊子にして、関係者や企画展来校者に配布した。

千葉県立白井高等学校 特別企画展

白井の「あそび」と

まちの移り変わり

入場無料

【主 催】 白井市郷土博物館
【協 賛】 千葉県立白井高等学校
【開 展 期 間】 12月9日(土)～12月26日(火)
【開 展 時 間】 午前9時～午後5時
【観 覧 料】 無料
【問 合 せ】 047-149-1151

2023
12月9日(土)▶12月26日(火)



↑工事序盤の北総鉄道

一建設中の西白井駅



北総鉄道の工事現場は子どもたちにとって巨大な「あそび」場だった



御名前など

質問内容

- ・子どもの頃は何をしていたか？
手賀沼で貝を採っていた。
ビー玉やペーゴマ、竹馬に乗っていた。
川遊びで、今でいう田んぼの水路に土俵で喉をやって、上流から綺麗な水が溜まるから、そこで遊んでいた。
・特に楽しかったことは？
1週間に1回紙芝居があり、楽しみだった。
・子どもの頃に遊んでいた場所は？
お堂や集会所、友達の家の中。
・白井市は昔と今でどう変わったと思うか？
16号線と北総鉄道が開通し、商業施設が増えた。
・白井市に住んで良かったところは？
災害が少なく緑が多いところ。
・もともと白井はどんな場所だったか？
自然豊かな農村地帯でした。



白井の未来について

御名前のお話によると、昔は自然が豊かなかわがで綺麗な水が流れていた。しかし、木が減ってきている影響で水が汚れてしまっている。昔は川で野菜などを洗っていたと語ってくれた。また、多くの方が仲良く暮らしてほしいと語ってくれた。それらの話から、私たちは緑林などで自然を保護し、すべての人々が共生できるまちにしたい。



御名前が馬に乗っている時の様子

戦時中の白井の話

白井市は、他の所と比べれば、被害が大きくなかったが、1944年(昭和19年)頃戦争が激しくなって、アメリカの戦闘機と空中戦になった。現在の第一工業団地と河原子周辺で日本の戦闘機が2機落とされた。1機のパイロットは逃げられたが、もう1機に乗っていた方は戦闘機とともに亡くなった。河原子に落ちた戦闘機の機体の残骸を拾ってきた近所の子どもが信管を抜こうと叩いたら爆発し腕を切断する大けがをした。当時は医者で診せるのに柏市の病院まで担いで運んだとのこと。

軍馬が払い下げられた話

戦時中、第二小学校の裏山に部隊が駐屯し、山砲を運ぶ馬や階級の高い人が乗る馬がたくさんいて、終戦後に軍馬が払い下げになった。抽選で馬を買うことができ、1頭300円(現在の価値に換算すると約20万円)で買えた。その馬に乗って草競馬を行った。草競馬は5頭で走り、順位を決めた。優勝すると餅と賞品で自転車のチューブがもらえた。御名前は優勝の経験もある。



御名前など

好きな梨の品種は「秋月」と「幸水」

●御名の歩み (1941-1960)



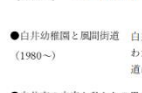
(1961-)



●白井市のグローバル化 (1958-)



●北総線 (1970-)



●白井市の未来と私たちの思い

御名前は、白井市の未来について、「緑を減らさずに建築物を増やし、人口を減らしてほしい」と話していた。私たちは、白井市の未来に対して「持続可能な発展」を望みます。コロナの影響などにより、祭りなどが中止となり、地域住民の交流が減少していききました。そのため「地域コミュニティの強化」が必要で、御名前は幼少期の頃の白井市は「緑が多くとても心地良かった」と話しています。一方で、地域住民が緑地を大切に思う気持ちや思いを持つことで、「緑地の保護」につながります。今回の聞き取りを通して、御名前の思いと同じく、白井市が今後とも明るく活気のある都市になってほしいと、切に願っています。

太平洋戦争の影響で、暑気が悪くなり、そのころの子供達は、農家の家庭なら農業をし、家のお手伝いをしていたため、それ自体が遊びとなっていた。小学校4年生の頃に、高度経済成長の影響で経済が安定し、ペーゴマやメシコをしたりし、現在の西白井コミュニティプラザの周辺で遊ぶようになった。

1961年に、「農業基本法」の影響もあってか、白井周辺で果樹園が増え始めた。白井企業組合が結成され、その会長から梨を生産するよう指示される。梨の生産や果樹園の増加の理由として「土地柄や地形的に良かったから」とのこと。
1981年白井駅から小室駅付近に窓が降り、梨の木が大被害を受けた。その被害は3年間続き、その後、復興活動に尽力した。

北総線が開通する前の移動手段は、車か自転車であった。御名前は高校生になる頃(1958年)に、木更駅から甘藷甲に変わる。1950年頃は砂利道が主であったが、アスファルトの道へと変化がみられた。風間街道の裏道には米軍基地があった。米軍基地の中には、ゴルフ場やボウリング場があった。そのゴルフ場では、キャディーをする日本人もいた。また、基地の中に留められた際、初めてコーラを飲んだが、当時は「臭くて不味かった」とのこと。また、梨の品種である「長十郎」を1970-71年にかけてフランスに輸出した。

オイルショックの影響で、工業ニュータウン計画が縮小したが、その頃工業団地ができ、住む人が増えた。北総線の開通は白井市の街の変化に大きな影響を与えた。

白井幼稚園は、御名前の御親戚が創立し、その周辺を「風間街道」とした。その後1980から16年間にわたり、町長を務めた秋本元町長が道路の名称を決める際、道路に番号をふるのが基本となるが、風間街道は、名称をそのまま残した。その後、正式に風間街道と登録されたのは、1994年である。



その際、工芸の授業に横断し、また企画展の題字作成では書道部に横断した。



そして企画展の開催である。



証言をとるにあたって、郷土資料館と打ち合わせを実施し、白井には「あそび」に関する文字資料が不足していることを知ったため、生徒は「あそび」に焦点をあてたまちの変化をインタビューし、その後の歴史総合の授業にて自分たちが目指したい未来を考察した。

以上、「白井市まちづくりプロジェクト」・「白井市歴史発掘プロジェクト」の活動を1年目は完了した。なお、この活動に関して、2023年8月25日千葉県総合教育センターにて、「主権者教育（政治的教養を含む）実践力向上研修」の講師として実践報告した。